錯覚を体験、学び 発想力を養う

トリックアート美術館

日本発祥の参加・体験型アート「トリックアート」。平面の絵が飛び出したり、角度により違う雰囲気の絵に見えたりする不思議なアートだ。横浜・新港地区と東京・お台場にあるトリックアートの常設館は、作品を見るだけでなく、写真に撮ったり、自由に触れたりとさまざまな体験ができる。思い出づくりとともに、芸術性を学び、発想力を養える体験・見学地と、中学や高校の修学旅行で人気を集めている。

横浜トリックアート迷宮館 7月、新たにオープン

横浜のみなとみらいや中心街に近い新港地区の複合施設「横浜ワールドポーターズ」に7月11日、「横浜トリックアート迷宮館」が新たにオープンした。「時空を超えた旅」をテーマに、過去、現在、未来の世界を51点のトリックアートで表現。「錯覚やトリックで時間を超えた旅を作品の中で体験していただける」（同館）。

テーマである時間の移り変わりを感じてもらうため、館内レイアウトに工夫を凝らした。広さ528平方㍍の敷地内を大きく三つのゾーンに分割し、それぞれを表現。

現在をイメージした「ヨーロッパ散策ゾーン」は、ヨーロッパ各国の名所を訪ねた気分になれるさまざまなトリックアートを展示。日本にいながらにして〝世界旅行〟が楽しめる。

作品の一つ「翼よ、あれがパリの灯だ」は、歴史的偉業である大西洋横断を成し遂げた複葉機がパリの上空を飛ぶ様子を表現。来場者は複葉機の翼の上に乗るなど自由にポーズが取れる。

過去をイメージした「ジャングル体験ゾーン」は、緑豊かなジャングルの中にある遺跡を探検しながらさまざまな危機に立ち向かい、隠し扉を探しだし、迷路を脱出してもらう趣向。

ジャングルの中から出現した巨大なサイと、サイに跳ね飛ばされた丸太がこちらに迫ってくるような臨場感あふれる「守ってくだサイ」、危険生物が飛び交う「コウモリVS毒蛇」が面白い。

未来をイメージした「未来体験ゾーン」は、トリックアートの最新作を惜しみなく投入。

地球を見下ろす宇宙船の鏡に映っているのは自分とは違う別人という「鏡の部屋」、CGのように見える画像だがまぎれもない立体物というユニークな「宙に浮くタイムトンネル」など、新しく開発したトリック、仕掛けを楽しめる。新しいギミック満載の作品はトリックアート自体の未来も表現しているという。今後も継続して最新作を追加し、「進化するトリックアート美術館を目指している」（同館）。

館内を大いに楽しんでもらうため、作品の説明や写真撮影をサポートする美術館スタッフが館内を巡回している。来場者の〝冒険〟をサポートする美術館スタッフのキャラクター「時の執事」も登場。雰囲気を盛り上げている。

▽横浜市中区新港2の2の1、横浜ワールドポーターズ4階。☎045（264）9240。不定休で、午前10時半から午後9時まで営業。入場料大人1300円、中学生以下900円。

「翼よ、あれがパリの灯だ」

「身長が変わって見える部屋」

「鏡の部屋」

東京トリックアート迷宮館 人気の浮世絵をだまし絵に

「東京トリックアート迷宮館」は、江戸をテーマにした和風のトリックアートをはじめ、多くの人気作品を展示する体験型の美術館。東京屈指の観光スポットお台場にあり、一般客や修学旅行客で年中にぎわっている。

館内に入り、まず目にするのは「江戸エリア」。「華やかな江戸の彩」をコンセプトに、色彩豊かで親しみやすいモチーフの、和風の作品を数多く展示している。

「トリック浮世絵」と題して、浮世絵の名作をだまし絵にして展示。北斎の「神奈川沖浪裏」で来場者がサーフィンをしたり、子供たちと一緒に雪だるまを転がしたり、現実と絵が一体になったユニークな写真を撮れる。

忍者屋敷では「身長が変わって見える部屋」や「隠し扉」などさまざまな仕掛けが隠されていて、自分が忍者になったような気分を味わえる。

隠し扉を抜けた先は「トリックアート名作ギャラリー」。過去の名作から最新作まで、多くの作品を展示している。

「脳トレコーナー」では、クイズ作品や人気の高い隠し絵を展示。「グッズコーナー」では、来館記念のグッズを販売している。

トリックアート美術館だからこそできる〝仕掛け〟が楽しい「リアル謎解きゲーム」（別途料金が必要）も開催中。館内で展開されるストーリーをみんなで解いていく体験は、トリックをより不思議なものにしてくれるので、お勧めしたい。

▽東京都港区台場1の6の1、デックス東京ビーチシーサイドモール4階。☎03（3599）5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人1200円、中学生以下800円。

恵まれた自然環境で課題解決の体験学習

びわ湖大津SDGs教育旅行プログラム

滋賀県大津市は、約670平方㌔㍍という日本最大にして最古の湖「琵琶湖」の畔、県の南西部に位置し、京都、大阪など近畿圏の約1450万人の生活を支え続けている。大津京遷都から1350年の歴史を持ち、最澄によって創建された、天台宗総本山の比叡山延暦寺、紫式部が源氏物語を起筆したといわれる石山寺、明智光秀の菩提寺である西教寺など、歴史上の名だたる人物に愛され、自然と人々の暮らしが調和した美しい水辺の風景の宝庫。びわ湖テラスや世界最大級の長さを誇るびわこ花噴水といったびわ湖の姿が一望できる風光明媚なスポットは観光客からの支持を集める。

びわ湖大津観光協会では、一昨年12月にSDGs探求学習プログラムを取り入れた「びわ湖大津SDGs教育旅行プログラム」を創設した。

びわ湖と比叡山

ウォータースポーツ体験（カヌーを漕ぐ様子）

■びわ湖大津SDGs教育旅行プログラム

恵まれた自然環境をフィールドにした大津での体験学習（現地学習）と、事前事後学習を組み合わせ、地域の課題解決に向けた自らのSDGsの取り組みについて考える。事前学習では、訪問先について調べるだけではなく、住んでいる地域の課題についても学ぶ。

現地学習では体験学習を通じ、大津市の課題や取り組みについて学ぶ。

そして、事後学習では、現地での体験を通じた気づきや学びから、地域に生かす自身のSDGsの取り組みについて考察。

■六つのテーマから選ぶ体験学習プログラム

びわ湖でのウォータースポーツ体験、伝統産業や自然体験などを①自然②歴史③環境④文化⑤産業⑥経済の学習テーマに分類。自分たちが体験するプログラムがどんな学びにつながるのかを分かりやすくイメージできる。

■プログラムごとに関連するSDGsゴールを設定

各プログラムがSDGs17の目標のどれに該当するか示すことで、日々の学習につなげやすくなると同時に、はじめてSDGsを学ぶ児童生徒向けに分かりやすく、学習教材（ワークシート）としても活用が見込める。

■滋賀県独自の取り組み琵琶湖版SDGs「MLGs（マザーレイクゴールズ）」、世界農業遺産「琵琶湖システム」

琵琶湖版SDGs「MLGs」や、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」などの滋賀県ならではの取り組みを学び、地域活動の参考に活用する。

■びわ湖地引網体験

琵琶湖とともに生活をしてきた現地の漁師の指導のもと、漁業（地引網）を体験し、滋賀県での漁業の実情や、環境保全の取り組みについて調べる。

同時に、1次産業が環境に、どのような影響を与え、環境保全に向けて、どういった取り組みを実施しているか学ぶ。

■環境体験による琵琶湖の自然を学ぶ

カヌーで琵琶湖の環境で重要な役割を担っているヨシについて、カヌーに乗って水上でヨシ帯など水環境を観察することや、約20人で1艇のドラゴンボートに乗って力を合わせてこぎ進める。

さらに、ヨシのヨシ紙を用いた笛づくり（クラフト）を行うことで、自ら考えて行動する力、協調性や、人と自然のつながりを感じる力を養う。

■宿泊施設で実施するSDGs学習「マイプラ」

宿泊先で実施する出張型のSDGs講演プログラム。世界や地域のさまざまな問題と自分の生活の関連性について気づき、SDGsを「自分ゴト」として考えるための学習コンテンツ。

それ以外にも23のプログラムを設けたため、各校に合わせたモデルコースの提案が可能な点も特徴。

今後もびわ湖大津ならではの独自のプログラムを用意し、子どもたちに気づきやきっかけを与えていく。

水質調べ

ヨシ紙笛づくり

公益社団法人びわ湖大津観光協会
〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2-3
市民文化会館内
TEL077(528)2772　FAX077(521)7330
URL https://otsu.or.jp/　E-mail info@otsu.or.jp

集金代行サービス 関西の公立高校164校が導入

大阪ガスファイナンス

大阪ガスファイナンスはエネルギーの安定供給を通じて暮らしと社会を支える企業、大阪ガス100%出資会社。大阪ガスを支える総合ファイナンス会社として設立され、年間160万件以上の集金代行実績があり、学校に関しては関西の公立高校164校が同社の集金代行サービスを導入している。

集金代行サービスは、「口座振替代行サービス」と「コンビニ決済代行サービス」の2種類を取り扱っている。

口座振替代行サービスを利用することで、手集金や振込集金よりも回収率の向上や、集金業務の負担軽減に期待できる。また、オプションの「WEB口座振替受付サービス」を導入すれば、集金先がインターネット上で口座振替受付を行えるようになり、集金先から記入、押印した専用用紙を回収する手間がなくなる。

コンビニ決済代行サービスは、手持ちのプリンターからスピーディーに払込票の印刷ができ、全国5万5千店舗のコンビニで支払いが可能になる。さらにオプションの「ゆうちょ銀行・郵便局併用プラン」の加入で全国のゆうちょ銀行、郵便局での支払いも可能になり、さらなる利便性の向上を図ることができる。

2006年度から継続して一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）のプライバシーマーク認証を取得しているなど個人情報管理も徹底しており、安心感をもって利用できるサービスとなっている。

問い合わせ先は☎（0120）112308。

OGF 大阪ガスファイナンス株式会社
社名ロゴ

長野県茅野市 白樺湖

池の平ホテルと白樺湖、日本百名山の蓼科山の雄大な自然

教育旅行に最適な体験フィールド

長野県茅野市の白樺湖は、四季それぞれに豊かな自然を体感でき、一方で洗練されたリゾート感覚の諸施設は安全と快適を兼ね備え、教育旅行に最適な体験フィールドを提供している。各エリアへのアクセスも良好だ。

長野県は、スキー修学旅行の代表的な地域として知られている。また、茅野市の白樺湖一帯は、スキーだけでなく多彩なプログラムによって、年間を通した教育旅行先として注目されている。標高1500～1800㍍の大自然の懐に抱かれ、山や高原の木々が緑の萌えたつ夏期、一面が真っ白な雪に覆われる冬期…四季折々にさまざまな表情をみせ、多様な体験ができる。

一例をあげると、夏期には清涼で開放的な空間や環境を生かした自然観察や自然体験学習、登山、トレッキングスポットが広がる。日本百名山の蓼科山や車山高原、八島湿原といった若干ハードな登山から幅広いレベルで楽しむことができ、トレッキングルートなどさまざまなコースを堪能できる。北アルプスを見渡すことのできる各コースは教育旅行のみならず、家族や夫婦など一般の人々に大変人気なスポットでもある。

冬期にはスキーやスノーボードが行える。スキー場は、池の平スノーパークをはじめ、しらかば2in1スキー場、白樺高原国際スキー場などが点在し、初心者から上級者まで対応しているため、生徒たちの習熟度に合わせてコースが選べる。

日本でも有数の星スポットのある長野県。そんな数あるスポットがある中でより空に近い標高1500～1800㍍で満天の星空体験をできて、都会では出会うことのない夜空いっぱいに輝く細かな星たちを観賞できる。池の平白樺高原ホテルには星空を案内する星空ガイドが常駐しており、無数に輝く星々をレーザーポインターなどで星座のつなぎ方を教えてくれて、神話の話で楽しませてくれる。今一番魅力的な体験の一つでもある。

スキー修学旅行でにぎわうホワイト期のゲレンデ

長野県観光機構

「自然学習」をアピール SDGs教育プログラム

長野県観光機構は、全国の中学校に向けて「自然学習」の提案を強化している。特徴は、長野県にある五つの国立公園を舞台にした自然保護、環境保全を考えるSDGs教育プログラムとなっている点で、その狙いは「生徒が自然の大切さに気づき、かつ、自然保護と環境保全に対する意識を高めること」と同機構。また、「自然が与える恵みは、都市生活と密接にかかわっていることへの理解を深めてほしい」と話す。

現地で行う自然保護、環境保全学習プログラムの内容は、「外来種駆除」「登山道の整備」など。併せて、環境省職員による国立公園についてのレクチャーも受けられる。

環境省職員による事前学習への参加も都合がつけば可能で、その内容は①国立公園レクチャー②野生動物保護、対策などのレクチャー③ジビエ料理のSDGs観点―など。ライブ配信による質疑応答にも対応する。

併せて、「自分たちができる自然保護、環境保全」をテーマにした発表会を行う事後学習も提案している。

問い合わせ先は、長野県観光機構パブリック事業部☎026（219）5274。

自然学習

5人以上の乗車可能

長野県観光機構 ジャンボタクシー

長野県観光機構は、5人以上の乗車が可能な「ジャンボタクシー」を利用した教育旅行を提案している。長野市（長野駅または宿泊施設）出発・到着に利用でき4クラス、24台までに対応。ジャンボタクシーの最大乗車人数は9人となっている。

同機構がジャンボタクシー利用を薦める理由は①班別で行動できる②小回りが利くため観光バスが行けない場所に行ける③生徒自らによるコース設定が可能―など。また、タクシー運賃を半額にできる手法で、昨今のバス代の高騰に対抗できる交通運賃の削減が期待できる。生徒がコース設定、運賃計算などを行い、申請書を作成し、機構が内容をチェックし、タクシー会社が実際に申請を行うという新しい事前学習ができる。行程を考える楽しみ、訪れる観光地への興味が持てる点が特徴。

長野県は、観光地が豊富で組み合わせパターンは無限で、産業観光を組み入れることも可能。

問い合わせ先は長野県観光機構パブリック事業1部☎026（219）5274。

ジャンボタクシー

持続可能な観光学んで

ツーリストシップ 修旅生向け漫画教材を公開

一般社団法人ツーリストシップ（京都府京都市、田中千恵子代表）はこのほど、修学旅行生向けにツーリストシップや持続可能な観光などについて学んでもらうための漫画教材を無料で公開した。

修学旅行をきっかけにより多くの若年層に、旅行が及ぼす影響や旅行者としてのふるまい方などについて学んでもらいたいと考えた。

同法人はこれまで、「旅先クイズ会」など、全国の観光地で旅行者に対するマナー啓発を行うほか、全国の修学旅行生向けのワークショップなどを実施。その中で、持続可能な観光への理解促進にさらに力を入れるべきと考え、今回の教材作成と無料配布に至った。

公開した漫画は全16㌻。旅行の成り立ちや、旅行が地域にもたらすメリットやデメリットを解説。その上で、同法人が旅行者の姿勢として推奨する、スポーツマンシップの旅行版「ツーリストシップ」について、「旅先への配慮」「旅先への貢献」「旅先での交流」と、「旅行者を受け入れるホスト」の四つの観点から考え方や行動様式などを学べるよう、簡単な例を挙げながら紹介する。

このほか持続可能な旅行やオーバーツーリズムなどの観光に関するホットトピックも取り上げる。

漫画教材と併せて事前学習などで使用できるワークシートも用意した。

教材はいずれもPDF形式でWEB上（https://touristship.jp/schooltrip/）で配布。生徒の個別タブレットなどに配布できるほか、自由に印刷して利用できる。

問い合わせは同法人（contact@touristship.jp）まで。

公開されたマンガ